

研究代表者 白阪 琢磨 (国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター)

研究協力者 山崎 厚司 (公益財団法人エイズ予防財団)
辻 宏幸 (公益財団法人エイズ予防財団、
国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター)

研究要旨 令和2年度に「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」で行った大阪市民5,665人を対象とした調査によると、最近2年間にHIV/エイズに関する情報に接した者は920人(16.2%)で、341人(37.1%)が24歳未満の若者であった。また、接した媒体としては、学校の授業が最も多く256人(27.8%)であった。これらのことから、多くの高校ではHIV/エイズを含むテーマが授業で取り上げられていることが推察された。そこで、高校の授業を補完し、正しい知識の定着を図るため、高校生世代に向けた啓発を実施するとともに、高校の授業で活用される教材を開発する。

啓発の実践として、FM放送を利用しスポットCMを行った。また、高校生世代向け教材の開発として、HIV/エイズに特化したオンライン学習システムを作成、公開した。

研究目的

令和2年度に「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」で行った大阪市民5,665人を対象とした調査によると、最近2年間にHIV/エイズに関する情報に接した者は920人(16.2%)で、341人(37.1%)が24歳未満の若者であった。また、接した媒体としては、学校の授業が最も多く256人(27.8%)であった。これらのことから、多くの高校ではHIV/エイズを含むテーマが授業で取り上げられていることが推察された。そこで、高校の授業を補完し、正しい知識の定着を計るため、高校生世代に向けた啓発を実施するとともに、高校の授業で活用される教材を開発し、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(平成30年1月18日)に記された「感染に関する正しい知識を普及できるように、学校教育及び社会教育との連携を強化して、対象者に応じた効果的な教育資材の開発等により、具体的な普及啓発活動を支援するように努める」に資することを目的とした。

研究方法

1) 高校生世代に向けた啓発の実践

FM放送を利用し、若年リスナーの多い時間帯にスポットCMとしてHIV/エイズに関する基礎知識や検査情報、啓発メッセージを放送する。

2) 高校生世代向け教材の開発

これまであったような冊子の副教材ではなくオン

ライン学習システムとするため、eラーニングシステムの構築を行う。また、学習指導要領、教科書、教職員のための指導の手引等資料の記載内容の確認を行う。保健体育科教諭、養護教諭等にアンケート調査を行うなど、協力を仰ぐ。

(倫理面への配慮)

啓発の実施にあたっては、HIV陽性者を含む、目にしたすべての人に不快感を与えない内容とするよう配慮する。

研究結果

1) 高校生世代に向けた啓発の実践

大阪府を放送対象地域とするFM802を利用し、以下の通り啓発を行った。

HIV検査普及週間

①スポットCM放送

種類：20秒CM×4タイプ

放送期間：5月23日～6月7日

放送本数：25回

内容：

(1)「自分自身・大切な人のために検査に」

6月1日から7日まではHIV検査普及週間です。HIVの検査は関西各地の保健所で、無料で受けられ、名前を告げる必要もありません。あなた自身のため、そして大切な人のために、検査は大切です。エイズ予防財団は、HIV/エイズの啓発を推進しています。

(2)「HIV/エイズ、梅毒」

最近あまり聞かなくなったエイズですが、去年も625人の感染報告がありました。HIV/エイズは誰もが関係のある感染症です。また最近感染が急拡大しているのが梅毒。大阪市ではHIV検査と一緒に梅毒の検査も無料で受けることができます。エイズ予防財団。

- (3)「エイズは不治の病ではない、だから検査に」及び(4)「男女かけあいバージョン」は令和4年度と同じ。

②生CM

放送回数：80秒×1回

放送日：5月29日(月)8時10分頃

番組：TACTY IN THE MORNING、DJ:大拔卓人

内容：ここで、エイズ予防財団からのお知らせです。

今週6月1日から7日までは、「HIV検査普及週間」です。「最近HIVやエイズという言葉、聞かなくなったな」と思われる方もいるかもしれませんが、日本でも去年は、870人の感染報告があり、世界に目を向けると、年間でおおよそ150万人が新たにHIVに感染したと推計されています。このように今なお、HIV/エイズは他人事ではない感染症です。

ただ、恐れる必要はありません。医療の進歩により、HIVに感染していても適切な治療で、平均余命は感染していない人と大きくは変わらず、エイズ・HIVにおいて死に至ることは大きく減少したと言われています。

HIVに感染したかどうかを知るためには、どうすればよいか、それは検査を受けないとわかりません。「では検査ってどう受けるの?」かという、関西各地の保健所や施設で、無料匿名で受ける事ができます。検査も簡単で、少量の血液を採取して、結果を待つだけです。

今週末には心斎橋で、臨時HIV検査も実施されます。日時は6月3日(土)17時から18時30分で、場所は長堀橋駅徒歩1分の、大阪検査相談・啓発・支援センター chotCAST(チョットキャスト)となります。検査結果は採血後、おおよそ1時間30分でわかります。また、最近若い人の間で感染が増えている梅毒の検査も同時に受けられます。その他にも、各施設で検査を実施していますので、気になる方は「HIV検査相談マップ」と検索してみてください。この「HIV検査普及週間」の機会にHIV、エイズについて考えて、行動してみませんか?

以上、エイズ予防財団からのお知らせでした。

世界エイズデー

①スポットCM放送

種類：20秒CM×2タイプ

放送期間：11月25日～12月10日

放送本数：25回

内容：

1)12月1日は「世界エイズデー」今やエイズは不治の病ではありません。感染しても、適切な治療で、これまでと変わらぬ生活を送ることができます。感染は検査でしか分かりません。エイズについて考えよう。詳しくは「エイズ予防情報ネット」をチェック!

(2)12月1日は「世界エイズデー」世界では1年間に130万人がHIVに感染し、63万人がエイズで亡くなっています。日本でも1年でおおよそ900人の感染報告があります。エイズについて考えよう。詳しくは「エイズ予防情報ネット」をチェック!

②生CM

放送回数：80秒×1回

放送日：12月1日(木)13:45頃

番組：UPBEAT! DJ:加藤真樹子

内容：ここで、大阪エイズウィークスからのお知らせです。本日、12月1日は「世界エイズデー」です。「最近HIVやエイズという言葉、聞かなくなった」と思われる方もいるかもしれませんが、日本でも1年でおおよそ900人の感染報告があり、世界に目を向けると、年間でおおよそ130万人の新規HIV感染者が報告されています。また、「怖い」というイメージがあるかもしれませんが、治療方法は大きく進歩しました。HIVに感染していても健康な状態で生活続けることができ、エイズ・HIVにおいて死に至ることは大きく減少したと言われています。また無料で検査を受けたり、相談ができる場所も全国各地に多数あります。「大阪エイズウィークス」は、そのような正しい知識をより多くの人に知ってもらい、皆で考え、そして行動するきっかけとしてもらうため現在、様々なイベントが行われています。明日12月2日土曜には、大阪の心斎橋で、臨時HIV検査が実施されます。時間は17時から18時30分で、場所は長堀橋駅徒歩1分の、大阪検査相談・啓発・支援センター chotCAST(チョットキャスト)となります。検査結果は採血後、おおよそ1時間30分でわかります。また、年明けの1月20日土曜日には大阪市中央公会堂で「大阪エイズ啓発フェスティバル」という講演やシンポジウム、音楽を通じてHIV・エイズについて考えるイベントが開催されます。イベントの目玉は、14時30

分開演の「エイズ啓発ジャズフェスティバル」。学生やプロジャズバンドのジャズパフォーマンスなどを通じた啓発イベントです。併せて、「日本におけるエイズの現状」についての講演会や健康相談会なども開催されます。イベントの入場は無料、予約不要です。その他、12月上旬にかけて、大阪市内で展示会や相談会などが実施されますので、ぜひホームページをチェックしてみてください。以上、大阪エイズウィークスからのお知らせでした。

知的財産権の出願・取得状況（予定を含む）

該当なし

2) 高校生世代向け教材の開発

eラーニングシステム「HIV マナブ」を作成、公開した。<https://hiv-manabu.jfap.or.jp/>

公開が遅れたため、予定した学習テーマの一部コンテンツ作成が間に合わなかった。今後、保健体育科教諭、養護教諭等への広報、アンケートを行い、学習コンテンツの追加など、システムの完成を目指していく。

考 察

メディアを利用した啓発の実施による効果を直接的に測ることは難しい。大阪検査相談・啓発・支援センター chotCast で行った臨時 HIV 検査受検者へのアンケートに、受検理由としてラジオ CM と連携して実施したイベントで知ったと回答した者があり、メディア利用による広報活動とイベントの連携、さらには検査機会提供の連携が重要であると考えられる。

エイズ予防財団で作成し、YouTube で公開している HIV/ エイズの基礎知識に関する動画が、高校等の授業で利用されている。エイズに対する偏見や差別を解消するためには、学校での学習機会に合わせた啓発が効果的であると考えられる。

結 論

メディアを利用した広報と保健所等における検査機会提供の、よりいっそうの連携が必要である。

HIV・エイズに関する情報に触れる機会は少なく、エイズに対する偏見や差別を解消するためには、学校での学習機会に合わせた啓発が効果的であると考えられ、適切な教材の開発と啓発の継続が必要である。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし